

高雄・花蓮・台北見聞録

平成27年3月16日から3泊4日で丸橋夫妻、平山恵子さん、斉藤君江さんの5人で台湾周遊の旅に行ってきました。台湾旅行の起点はほとんど台北になっています。高雄に行くには台北から飛行機や新幹線、高速バスなどを利用しなければなりません。



今回、バニラエアが初めて高雄に LCC の直行便を就航させました。これを記念し“さわやかプラス”が台湾周遊の企画を発表しました。これに応募して出掛けました。この企画の

特徴は、高雄を起点に東回りで台湾を一周するものです。最終日は台北から新幹線で高雄に戻り、そこから成田に帰るプランになっています。

このツアーの目玉は LCC の直行便と台湾の新幹線に乗れることです。3泊4日で台湾を一周するのはかなりのハードスケジュールです。フリータイムがまったく取れなかったのは致し方ありません。料金は全食事付きで44,800円でした。



1. LCC 直行便

LCC を利用するのは、平成25年10月以来、今回が2度目です。LCC はすっかり定着した感じです。バニラエアのチェックインカウンターは長蛇の列でした。朝、待ち合わせの電車で落ち合うことが出来ず、空港に遅れて到着するハプニングがありました。チェックインの手続きが混雑で遅れていたため事なきをえました。



A320のJW121便は若者を中心にほぼ満席でした。成田を11:45に出発し、高雄国際空港には定刻の15:30に到着しました。空港は近代的な国際空港になり、往時とはすっかり様変わりしていました。



2. 初日(3月16日) 蓮池潭、寿山、龍興餐厅、六合夜市、華王大飯店

直行便のメリットは、明るい内に市内観光が出来ることです。空港から専用バスで蓮池潭と寿山を観光し、夕食は“龍興餐厅”で海鮮料理を食べました。これはうまかったです。夕食後、六合夜市を散策しました。ホテルは“華王大飯店”でした。駐在員時代しばしば利用した懐かしいホテルです。当時は5つ星でした。現在も風格があり格安ツアーではもったいないホテルです。

(1) 蓮池潭

最初に訪れたのは、高雄で最も有名な観光スポット“蓮池潭”です。ここは左営にある全長1.4kmの湖です。池の中に多数の蓮が植えられていることからこの名が付いています。今回は季節が早かったため、蓮の花を見ることは出来ませんでした。



池の中には春秋閣、五里亭、龍虎塔など中国風の極彩色な建物があります。中でも龍虎塔は最も人気の高い建物です。(左) 塔の中には中国の賢人や神話、格言などが壁面に描かれています。

左側の龍の口から入って、右側の虎の口から出てきま



す。このルートを通り抜けると悪霊が追い払われ、福が来ると言われています。われわれにもきっと幸運が訪れるでしょう。

左營は日哥電子の工場があった楠梓加工区の近くです。今では新幹線の高雄駅(正式には左營駅)として栄えています。水餃子の美味しい店がたくさんあります。

(2) 寿山

寿山は海拔356mの高台にあります。ここから高雄港はじめ高雄の街を一望できます。今は国家自然公園に指定され、動物園や石灰岩の洞窟などがあり、ハイキングコースにもなっ



ています。夜景がきれいなことからデートスポットとして人気があります。日本統治時代は大物主尊・崇徳天皇・北白川宮能久親王の三柱を祭神とする“高雄神社”でした。鳥居や狛犬、灯籠が並んでいました。現在は“高雄忠烈祠”になっています。



(3) 龍興餐庁

夕食は海鮮料理の人気店“龍興餐庁”で食べました。この料理は中国八大料理のひとつ浙江料理です。茹でたエビ、春巻き、魚のあんかけ、イカの八宝菜、フカヒレと海苔のスープ、カニのおこわなどなど。まろやかで日本人の味覚に合う旨い料理でした。



(4) 六合夜市

夕食後、高雄最大の夜市である“六合夜市”に出掛けました。港町だけあって海鮮料理の屋台が多いのが特徴です。お粥やカラスミ、果物、アイスクリームの店もあります。われわれは満腹でただ見るだけでした。



(5) 華王大飯店(KINGDOM)

このホテルは1968年に高雄で初めて開業した本格的な国際観光ホテルです。当時は唯一の5つ星ホテルで、高雄のランドマーク的な存在でした。国内外から企業のトップや政府の要人などセレブが利用していました。

私も駐在員時代に何度か泊まりました。普段はビジネスホテル専門ですが、本社の社長や役員が来た時はそのお供で泊まりました。歴史のあるホテルだけに今でも重厚な風格があります。



近代的な豪華ホテルが新市街地に次々にオープンし、格安ツアーのホテルになったのは往時を知る者には残念なことです。それはそれとして、このホテルに泊まれたのはラッキーでした。部屋は広くて清潔でした。朝食は1階

のレストランでバイキングを食べました。日本の高校生が修学旅行で泊まっていました。よい時代になったものです。



(6) 高雄の思い出

高雄は台湾第2の都市です。台湾最大の工業都市であり、貿易港として発展してきました。台湾政府は輸出加工型経済を促進するため、1966年に世界で初めて輸出加工区を高雄に開設し、外資の誘致に乗り出しました。日本の電機メーカーはこぞって進出しました。

1973年、日本コロムビアも初の海外工場を楠梓加工区に設立する方針を決定しました。私はこのプロジェクトを推進するため台湾に赴任し、台北支店長兼務で工場の立ち上げを担当しました。当時は台北に住んでいました。毎週国内線で高雄に飛び、そこから車で加工区に出掛けていました。その頃の高雄空港は平屋建てで、歩いて飛行機に搭乗したものです。

この工場(正式には日哥電子)はコロムビアの栄枯盛衰と共に歩み1994年、21年の歴史を閉じました。加工区に進出した企業はいずれも労働集約型の産業でした。その後、労働集約型は立ちいかなくなり産業構造の転換を迫られました。かくして輸出加工区の役割は終わり、現在はハイテク産業の拠点になっています。日哥電子はその転換が出来ないまま終焉を迎えました。

この工場の経営や技術指導あるいは視察に訪れた人は数え切れません。わが同期だけでも安西君、芦澤君、市川君そして黒部君がいます。安西、芦澤両君は経営に携わりました。市川君と黒部君は労使の視察団で訪れました。

今回は行けませんでした。高雄には景勝地として有名な“澄清湖”という湖があります。中国の西湖をモデルにした人造湖です。蒋介石が故郷を偲んで作らせたと言われています。



その湖の一角に蒋介石の別荘があり、その一帯は立ち入り禁止になっていました。

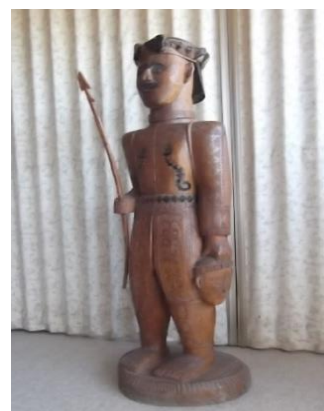
技術指導のために川崎工場の峯村昭一君が高雄に駐在していました。ある時休日を利用して澄清湖で釣をしていました。ところが、立ち入り禁止になっているところだったため、警察にしょっ引かれて留置されてしまいました。

警察からの通報で総務部長などと一緒にもらい下げに行った思い出があります。

高雄には造船所や船の解体業者があります。そのガラクタが市内に出回っています。左のランプはそこから買ったものです。玄関に飾ってあります。右の写真は首狩り族の木彫り人形です。山地門という高雄郊外の山



奥にある原住民の部落で買ってきました。頭に蛇の鉢巻きをし、顔と胸に入れ墨があります。右手に槍、左手には首がぶら下がっています。全長が1m20cmあります。いずれも高雄の思い出の品です。



3. 第2日(3月17日) 東海岸、三仙台、六仙洞、花蓮

朝、丸さんとホテルの周辺を散歩しました。かつてはスモッグに覆われ、自転車通勤の人波で混雑していました。今は空気が澄み渡り、自転車も大幅に減って、オートバイに変わりました。産業構造が変わり、中心市街地が移ったためでしょう。



ホテルの近くを流れる川は“愛河”というロマンチックな名前が付いています。別名“ラブリバー”とも呼ばれ、デートスポットになっています。ナイトクルージングが盛んなようです。



物産店に立ち寄った後、花蓮を目指して東海岸をバスで北上しました。途中、三仙台、八仙洞を見ました。このルートは太平洋を眺める以外に目ぼしい観光スポットはありません。昼食は台東の“一家餐厅”で郷土料理を食べました。花蓮ではオプションで原住民のショーに誘われました。女性3人は参加しましたが、小生と丸さんは断ってホテルに送ってもらいました。そこからタクシーで繁華街に出掛けました。想像していたより大きな町でした。宿泊した“翰品酒店”はフランス系のチェーンホテルです。築30年ですが数年前に買収され改修したそうです。郊外の中上級ホテルという印象です。夕食はホテルのレストランで広東料理を食べましたが期待外れでした。

(1) 東海岸

台湾は南北に3000m級の山脈が貫いています。その山脈を隔てて西と東では、自然環境、経済、産業、文化、生活レベルに著しい差があります。台湾海峡に面した台北、台中、台南、高雄の西海岸地帯は平野が広がり、高速道路や鉄道などのインフラが整備され、農林水産業を始め重化学工業、ハイテクなど主要な産業が集中し、産業ベルト地帯となっています。台湾を代表する名所旧跡も多く、圧倒的多数の観光客はこの地域を訪れています。



それに対し太平洋に面した東海岸側は、山脈の山裾が海岸線に迫り、断崖絶壁が続いて、道路や鉄道の敷設に障害となってきました。平野が少なく農業も小規模にとどまっています。企業の進出もほとんどありません。太魯閣の大理石が唯一地場産業として知られている程度です。観光名所も限られています。このため経済的発展が阻害されています。このような厳しい自然環境がこの地域の俗化を防ぎ、原住民が暮らす昔ながらの原風景を保っています。このルートの見どころは、名所旧跡ではなく、黒潮に洗われた海岸、豊かな自然、穏やかな田園風景ということになります。

近年インフラも徐々に整備が進み、自然や素朴さを求める観光客の注目を浴びるようになりました。高雄直行便の就航で、このルートを巡る観光客は増えることでしょう。今回われわ

れと同じ便で高雄を訪れた日本人観光客は同じホテル、同じレストランで出くわしました。われわれは総勢8人でしたので、専用のマイクロバスでしたが、HIS など他の旅行社は大型バスを連ねて観光していました。



(2) 三仙台

先ず訪れたのは、東部最大の景勝地“三仙台”です。海上に浮かんだ小島まで太鼓橋のような長い橋が続いています。3人の仙人が岩の上で休んだという伝説があります。島には滅多に人が立ち入らなかったため、豊かな海浜植物の景観を残していて、自然保護区に指定されています。



(3) 八仙洞

海に面した崖の上に、浸食で出来た十数個の洞窟があります。これが八仙洞です。約2万7000年前の後期旧石器時代の「長濱文化」遺跡として、国家一級史跡に指定されています。それぞれの洞窟には台湾らしいきらびやかな観音像や仏像が祀られ、宗教的聖地にもなっています。最も大きな崑崙洞は、その外見が女性器に似ていることから、地元では安産や子宝のご利益があると崇められています。



(4) 一家餐厅

昼食は台東のファミリーレストラン “一家餐厅” で郷土料理を食べました。観光地にある団体専門のドライブインといった感じで、まずまずの料理でした。カーゼル(洛神花)の花を加工した突き出しがうまかったので、土産に買いました。



台東市は東海岸では最大の都市です。と言っても人口は約20万人です。アミ族やプユマ族など先住民族の活動地

域でした。現在でも約半数は先住民族です。先史時代の遺跡や先住民の文化が残っています。平地が乏しいため大規模農業はありません。その代わりに果物の生産が盛んで、フルーツ天国と呼ばれています。中でも「釈迦頭」はこの地にしかない特産品です。



中央がカーゼル（洛神花）の突き出し、左は釈迦頭（パンレイシ）。

(5) 花蓮翰品酒店

昼食後、海岸線を見ながら花蓮に向かいました。沿線にはキリスト教徒のお墓が点在しています。台湾の宗教は道教と仏教が中心ですが、キリスト教徒もかなりいます。スペインとオランダが原住民に宣教したのが始まりと言われています。お墓が多いのはこの地方の宣教が盛んだったためかもしれません。



キリスト教徒の墓とブユマ族のキリスト教会

花蓮ではオプションで原住民のショーに誘われました。私は何度も見ているので、花蓮の市内を散策したいと思いホテルに送ってもらいました。女性3人はショーに参加しました。丸さ



んと2人でホテルにチェックインし、そこからタクシーで中心街に出掛けました。想像していたより大きな町でし

た。お目当ては掘だしモノでしたが、そういう店はありませんでした。原住民のショーは楽しかったようです。



花蓮の中心市街地と人気店の行列風景

“翰品酒店”は、なんともカラフルでハデハデなホテルです。入口の前に大きなオブジェがあります。館内には子ども達が喜ぶ動物のキャラクターがあちこちに並んでいます。まるで



ディズニーランドです。家族連れに人気があるのはうなずけます。元は「中信大飯店」と言っていたようですが、翰品酒店グループが買収してチェーン化したようです。最終日の昼食もこのチェーン店でした。部屋は広くて清潔で快適でした。



夕食はホテル内のレストラン「怡華廳」(左)でした。広東料理ということで期待していましたが、味はイマイチでした。

朝食はバイキングを食べました。品数が豊富で、シェフによる手作りの料理も味わえてよかったです。



4. 第3日(3月18日) 太魯閣、大理石工場、自強号、忠烈祠、故宮、九份

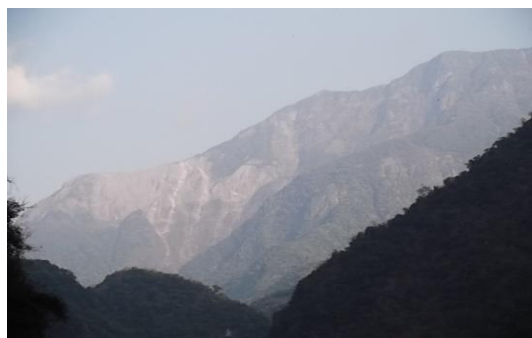
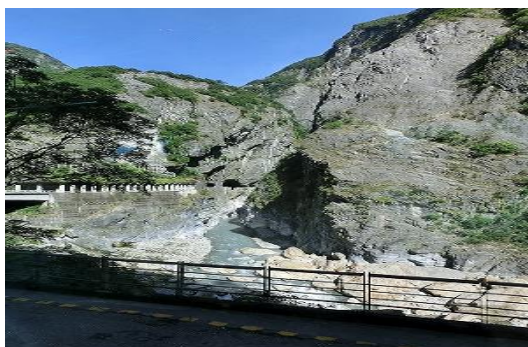
3日目は日程がびっしりのため朝早くホテルを出発し、本日のハイライトである太魯閣の観光に行きました。長春祠から折り返して大理石工場を見学しました。花蓮駅から自強号で台北に向かいました。昼食は車内で駅弁を食べました。50周年記念旅行とまったく同じパターンです。台北では忠烈祠と故宮博物院を見学しました。その後、九份を観光し“九戸茶語”で夕食を食べました。これは最低の料理でした。前日も九份で食事をしましたが、まずかったです。九份は料理がまずい土地のようです。ホテルは重慶北路の福君海悦大飯店でした。

(1) 太魯閣、長春祠

太魯閣溪谷は連日観光客が押し寄せる台湾最大の景勝地です。溪流の両側に切り立った断崖に沿って、長春祠、燕子口、九曲洞を経て天祥までの約20kmが観光ルートになっています。天祥からさらに進むと梨山に至り終着地は台中です。この道路を東西横貫公路といい中央山脈を横断し東と西を結ぶ唯一の道路です。



太魯閣溪谷の開発と横貫公路の建設は、戦後蒋介石とともに中国から渡って来た兵士達の失業対策事業として行われました。固い岩盤と険しい地形のため多くの犠牲者が出ました。長春祠は212人の殉職者を弔うために建てられました。われわれは時間の関係で、天祥まで行くことが出来ず、長春祠で折り返しました。



(2) 大理石工場、光隆博物館

花蓮は大理石やひすいの原産地として名高く、地場産業として発展してきました。郊外には多くの大理石工場があります。私も現役の頃、ダイレクトドライブプレーヤー用の大理石板



を発注するため、何度かこの地に来たことがあります。その工場のひとつを見学しました。大理石の切りだし

から研磨、加工までの一貫作業をしていました。



工場見学後、付設の“光隆博物館”に案内されました。入り口や中庭には大理石の彫像が配置され、ロビーには台湾で産出される貴石の数々が展示されています。“博物館”は表向きで大理石の工芸品の他に

サンゴやヒスイなどの装飾品が販売されています。恒子さんは値引き交渉に懸命でした。君江さんは言い値で買ったそうです。太っ腹です。



(3) 新型特急“タロコ号”

花蓮から特急列車のタロコ号(自強号)に乗って東海岸を一路台北に向かいました。この車両は2007年に運転開始された日立製の新型特急列車です。人気が高く、車名は一般募集で“タロコ号”と命名されました。従来の特急より45分短縮され台北まで約2時間となりま

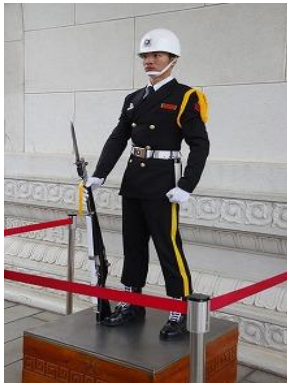
した。車窓からは右手に海岸、左手に山並みが広がります。マンションや高層ビルなどは台北に近づくまでありません。駅弁を食べながら自然を眺めて過ごしました。



(4) 忠烈祠と故宮博物院

台北駅から専用バスで忠烈祠と故宮博物院に行きました。忠烈祠では衛兵の交替式を見ました。故宮博物院は中国人団体客でごった返していました。人気の“翡翠の白菜”、“瑪瑙の豚の角煮”、“象牙の透かし彫り”の前は分刻みでの見学でした。わずかのフリータイムを利用して陶磁器コーナーを見るのが精一杯でした。





(5) 九份、九份茶坊、九戸茶語

故宮博物院を後に、最後の観光地九份に行きました。ガイドに断つてわれわれだけで展望台まで登りました。そこから基隆の街を眺めました。九份はかつて金鉱として栄えた街ですが、宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」や台湾映画「悲情城市」の舞台となったことから一躍人気スポットになりました。今日も大勢の観光客で賑わっていました。細い路地には古い民家を改造した茶芸館やレストランが立ち並び、懐かしい雰囲気漂っています。これが人気の背景です。



恵子さんがお茶を買いたいと言うので、“九份茶坊”に案内しました。“九份茶坊”は台湾の著名な画家が開いた店です。上質な茶器や茶葉を扱っています。茶芸館は100年前の建物をそのまま利用し、格調高い趣のある空間を演出しています。地下にはギャラリーがあります。必見のお店です。恵子さんはここでお茶を買いました。



夕食は“九份茶語”で郷土料理を食べました。これはハズレでした。“九份茶語”は「悲情城市」の撮影現場のすぐ近くにあるレストランです。古い民家を改装して最近オープンしたばかりの店で、人気レストランになっているようです。確かにこの街にマッチしたレトロな雰囲気を漂わせる店です。しかし、料理は期待外れでした。



前回も九份で夕食を食べましたが、これも美味くなかったです。ここには腕のよいコックがいないようです。

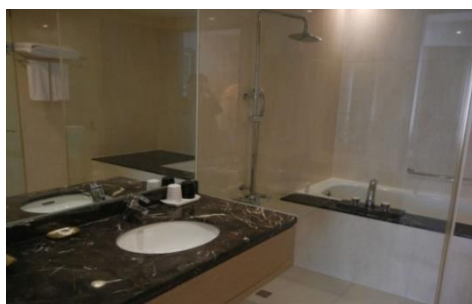
店の雰囲気は悪くはありません。ただし、店員が学生アルバイト風でファミレスの感じです。この店の名物である紹興酒で蒸したエビや豚の角煮、白菜炒めなど食材は問題ありません。味つけがよくないのはコックの腕が悪いのでしょうか。



(6) 福君海悦大飯店

最後の夜は重慶北路の“福君海悦大飯店”に泊まりました。期待以上のよいホテルでした。2007年9月に全面改装したとかで清潔で落ち着いた雰囲気のホテルです。台北駅と中山駅の間に位置し、徒歩で行くことができます。ビジネスマンには好立地のホテルです。

前回はこの近くのラブホテル風の安宿でしたので、あまり期待していませんでした。このホテルは初めてですが花蓮と同程度のよいホテルでした。格安ツアーには、ホテルはいずれも期待以上でした。



5. 最終日(3月19日) 新幹線、高雄三越、飲茶

いよいよ最終日になりました。台北から新幹線(現地では高鐵と言う)で高雄に向かいました。台湾の新幹線に乗るのは今回が初めてです。高雄の左営まで約1時間40分です。

(1) 台湾新幹線



運賃は片道1300元ですが、敬老者割引制度があって37%引きの815元でした。揺れは無く乗り心地は申し分ありません。ただし、座席は自強号の方が優れています。切符発売のシステムは日本より遅れていると丸さんは言っていました。左営は楠梓加工区の近くで高雄の中心地とは離れています。新幹線効果で田舎町だった左営は賑やかな町に変貌しました。

きっぷの下側に「敬老」と印刷されています。高齢者割引きっぷのことです。台湾の新幹線は日本製で、座席も日本と全く同じです。



左営駅の構内はまるで空港を思わせるモダンな設計です。



余談ですが、台湾の新幹線は赤字が膨らみ破綻の危機に直面していました。原因はいくつかあるようですが、乗車券が安いということも原因のようです。われわれも割引乗車券で乗りました。割引制度は多岐にわたっています。優遇制度が行き過ぎという指摘もあります。政府の出資でなんとか破綻は免れたようです。

(2) 高雄新光三越

フリータイムがなかったなので、市内観光はやめて新光三越で買い物をしました。



(3) 港都茶樓

昼食は“高雄翰品酒店”内の“港都茶樓”で香港式の飲茶を食べました。この飲茶は今回のツアーで最高の料理でした。最後にこんな美味しい料理を食べて大満足でした。



高雄16:00発JW122便で帰国の途につきました。夕食は機内食を食べました。この便は日本で機内食を積んで高雄では補充しません。このため帰りの便は残った料理しかありません。割引販売でした。成田には定刻の20:25に着きました。強行日程のためくたくたで帰り着きました。お疲れさん！！

6. むすび

旅の楽しみは宿、食事、観光、買い物、仲間との交流と言ったところでしょう。今回のツアーをこれに当て嵌めると、ホテルはいずれも期待以上でした。食事はすべて満足とは言えませんが、美味しいレストランに行くことが出来たので合格点です。同行の仲間は家族同然ですからなんの気兼ねもありませんでした。

観光は各地の見どころを満遍なく回りました。その割に印象が薄いのは駆け足だったからです。4日間でこれだけの場所を見て回るのは土台ムリな話しです。初めての人にはよいとしても、リピーターには不満があるでしょう。1都市1か所に絞ってゆっくり過ごすのがリピーターや高齢者にはよいと思います。観光地ではありませんが、大理石工場が印象に残りました。

旅先での買い物は楽しみのひとつです。お土産もさることながら、その土地の特産品や掘り出し物を探したり、旅の記念になるようなものを見つけるのは楽しいことです。今回は買い物の時間がまったくと言っていい程ありませんでした。これは不満が残ることだったと思います。

このツアーの特徴はLCCの直行便、花蓮から特急タロコ号、台北から新幹線とそれぞれ異なる交通機関に乗ることが出来たことです。乗り物好きには楽しかったと思います。私は堪能しました。左営駅や高雄国際空港の変貌ぶりを見ることが出来たのもよかったです。

高齢者にはハードな旅でしたが、全員脱落せず完走しました。いずれも食欲旺盛でよく飲み、よく食べました。これが元気の源です。台湾は見どころ、食べところがまだまだたくさんあります。田舎に留まりのんびり過ごすのも悪くありません。いつかこんな旅をしたいと思います。同行の仲間の友情に感謝し、またの機会に旅が出来ることを願ってむすびとします。

謝謝